

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北九州工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	生産デザイン工学科(機械創造システムコース)	夜・通信			8	8	7	
	生産デザイン工学科(知能ロボットシステムコース)	夜・通信			11	11	7	
	生産デザイン工学科(電気電子システムコース)	夜・通信			10	10	7	
	生産デザイン工学科(情報システムコース)	夜・通信			13	13	7	
	生産デザイン工学科(物質化学システムコース)	夜・通信			8	8	7	
	生産デザイン工学専攻	夜・通信		7	6	13	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

web シラバス上に記載
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=45&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北九州工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事(役員)名簿の公表方法

ホームページにて公表
<https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2029 年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理工 学府長・研究院長	2024年4月 1日～2026 年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月 1日～2026 年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北九州工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書(シラバス)の作成に係る取組 高専統一シラバスシステムにより、教育課程に記載されている各授業科目について到達目標を設定している。授業計画書については担当教員により見直しを行い、教務委員会にて確認の上、Web シラバスにて公開している。 ・ 授業計画書の作成・公表時期 翌年度の授業計画、担当教員を11月～12月にかけて決定し、その後1月末までを授業計画書(シラバス)の入力時期としている。 授業計画書公表時期：4月 	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>Web シラバスを公表 https://syllabus.kosenk.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=45&lang=ja</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>「北九州工業高等専門学校学則」、「北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則」及び「北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に則り、授業計画にてあらかじめ周知した評価割合に基づき、厳格かつ適正に単位授与または履修認定を実施している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【本科】

学期成績及び学年成績の平均評点(「GPA」)は、次の方法で計算する。

$$GPA = (\text{科目評点} \times \text{単位数}) \text{の総和} / \text{総単位数}$$

必要数を超えて取得した選択科目については、高得点の科目から順に必要な科目数のみをGPAの計算に算入。その他の選択科目成績はGPAの計算から除外する。学外で取得した科目の得点は、GPAの計算から除外する。

(各授業科目の成績表示および成績評価)

- 1 各授業科目の成績の得点、評語及び評点は、次の区分による。

得点	評語	評点
95～100	A+	4
90～94	A	4
85～89	B+	3.5
80～84	B	3
75～79	C+	2.5
70～74	C	2
65～69	D+	1.5
60～64	D	1
0～59	F	0

- 2 学業成績は、学期成績と学年成績とに区分し、授業科目ごとに評価する。
 3 各授業科目の学業成績は、試験の成績、平素の成績、出席状況等を総合して得点で評価する。
 4 やむを得ないと認められる事由により追試験を受験できなかった者の評価は、当該試験以外の試験の点数、平素の成績を考慮して当該試験の点数とすることができる。ただし、この場合の試験点数は満点の7割を超えないものとする。
 5 前条第4項の各号に該当しないと認められた者又は懲戒処分を受けたため試験を受験することができなかった者の当該授業科目の試験の成績は0点とする。
 6 試験において不正行為を行った者は、当該授業科目以降の受験を認めない。また、当該授業科目の試験の成績は0点とし、さらに、停学処分期間中の当該授業科目以降のすべての試験(当該試験期間中に試験として実施したものを含む。)に対する追試験を認めない。
 7 特別活動の評価は、合格又は不合格とする。

【専攻科】

以下の基準により平均評点を計算する。

第1学年：単位修得科目のうち第1学年の必修科目の合計及び選択科目の得点の高いほうから合計31単位分の平均点とする。

第2学年：単位修得科目のうち必修科目の合計及び選択科目の得点の高い方から合計62単位分の平均点とする。

(成績の評価)

- 1 成績は、授業科目ごとにシラバスに記載した評価方法に基づき、第4条に規定する試験の成績その他を総合して評点で評価する。
 2 成績の評価は、次の区分による。

評価	優	良	可	不可
評点	100～80	79～70	69～60	59～0

- 3 再試験により合格した授業科目の評点は、60点とする。
 4 試験において不正行為を行った者は、当該試験科目以降の受験を認めない。また、当該授業科目の試験の成績は0点とし、さらに、停学処分期間中の当該授業科目以降のすべての試験(当該試験期間中に試験として実施したものを含む。)に対する追試験を認めない。

上記により、算出したGPA及び平均点により、成績分布把握を行っている。

客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページにて公表 https://www.kct.ac.jp/educational-activity/koukai
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

ディプロマ・ポリシー、「北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則」及び「北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に基づき、以下のように取り組んでいる。

ディプロマ・ポリシー

北九州高専では、実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという特色ある教育課程を通し、以下のような製造業をはじめとする様々な分野において将来活躍するための基礎となる技術、リベラルアーツ、さらには生涯にわたって学ぶ力を身に付けた実践的・創造的な技術者を育成する。

1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツを身に付けていること。
2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力を身に付けていること。
3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドを身に付けていること。
4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基盤知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力を身に付けていること。

◆ 機械創造システムコース

基礎となる機械工学を中心に、実践的な機械技術、幅広い工学分野に関する知識を駆使し、問題解決できる能力を身に付けた技術者。

◆ 知能ロボットシステムコース

社会における要求や課題に対して、ロボット技術を駆使して自ら解決策を提案し、デザインできるシステムインテグレータ。

◆ 電気電子コース

電気電子工学に関する知識を基礎とし、実践的な電気電子技術および知識を幅広い工学分野に適用でき、問題解決できる能力を身に付けた技術者。

◆ 情報システムコース

ICT(情報通信技術)を活用したシステムに関連するハードウェアとソフトウェアの知識と技術を身に付け、様々なコンピュータ応用分野で問題解決できる能力を身に付けた技術者。

◆ 物質化学コース

物質化学分野に関する専門知識や技術をベースに、環境資源に配慮しつつ、材料工学・化学工学分野及び生物工学分野の研究開発や生産技術に関する問題を解決できる能力を身に付けた技術者。

「北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則」

(学年の課程修了の認定)

- ・ 学年の修了及び進級は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。
 - (1) 評語「F」がないこと。
 - (2) 欠課時間数が純授業時間数(学修単位科目にあつては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。
 - (3) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。
 - (4) 第1学年から第3学年については、特別活動の評価が合格であること。
- ・ 評語「F」は、当該年度中に再試験を合格することで評語「D」にすることができる。
- ・ 第5学年の学年修了を認定された者は、課程を修了したものとする。

「北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則」

(単位の認定)

次の各号のすべてを満たした授業科目については、当該科目を修得したものとして単位を認定する。

(1) 前条第2項の規定に基づき、評価が優、良及び可に評価されること。

(2) 欠課時間数が純授業時間数の3分の1を超えないこと。

(修了に必要な単位)

専攻科の修了に必要な単位は、62単位以上(そのうち、一般科目は10単位以上、専門基礎科目は14単位以上、専門科目は38単位以上とする。)とする。

また、専攻科学生の成績評価は次の基準により取り扱うものとする。

第1学年

単位修得科目のうち第1学年の必修科目の合計及び選択科目の得点の高いほうから合計31単位分の平均点とする。

第2学年

単位修得科目のうち必修科目の合計及び選択科目の得点の高い方から合計62単位分の平均点とする。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

北九州工業高等専門学校卒業成績の評価等に関する規則
北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則
<https://www.kct.ac.jp/educational-activity/koukai>

ホームページにて公表
<https://www.kct.ac.jp/about/3policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北九州工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度：令和6年度)
公表方法： https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf
中長期計画(名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度：令和6年度から令和10年度)
公表方法： https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1)自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページにて公表 http://www.kct.ac.jp/about/disclosure/self-inspection
--

(2)認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法：

(3)学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生産デザイン工学科 機械創造システムコース
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページにて公表 https://www.kct.ac.jp/about/philosophy)
(概要) 教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成 教育目的： ① 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得 ② 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得 ③ 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養 研究目的： ① 高度な実践的技術を教授するための教育水準の維持向上 ② 地域産業界との共同研究による地域への貢献と学生のものづくり教育の推進 ③ 専門工学分野への学術的な貢献
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：ホームページにて公表 https://www.kct.ac.jp/about/3policy/dp 北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則 http://www.kct.ac.jp/files/uploads/seisekihyouka202304_1.pdf)
(概要) ◆ ディプロマ・ポリシー 【生産デザイン工学科共通】 実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという特色ある教育課程を通し、以下のような製造業をはじめとする様々な分野において将来活躍するための基礎となる技術、リベラルアーツ、さらには生涯にわたって学ぶ力を身に付けた実践的・創造的な技術者を育成する。 1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツを身に付けていること。 2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力を身に付けていること。 3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドを身に付けていること。 4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基盤知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力を身に付けていること。 【機械創造システムコース】 基礎となる機械工学を中心に、実践的な機械技術、幅広い工学分野に関する知識を駆使し、問題解決できる能力を身に付けた技術者。 ◆ 卒業又は修了の認定に係る成績の評価等 (学年の課程修了の認定) 学年修了及び進級は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。 (1) 評語「F」がないこと。 (2) 欠課時間数が純授業時間数(学修単位科目にあっては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。 (3) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。 (4) 第1学年から第3学年については、特別活動の評価が合格であること。 2 評語「F」は、当該年度中に再試験を合格することで評語「D」にすることができる。 (課程修了) 第5学年の学年修了を認定された者は、課程を修了したものとする。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページにて公表 https://www.kct.ac.jp/about/3policy/cp 学生便覧内に記載 https://www.kct.ac.jp/burger_editor/burger_editor/dl/238_MjAyM19nYWt1c2VpYmlucmFu.pdf)

(概要)

◆ 本科のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)

1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツの修得を図る。
2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力の育成を図る。
3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドの育成を図る。
4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基礎知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力の育成を図る。

【生産デザイン工学科共通】

(A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ② 機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④ 実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ① 専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
- ② 工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③ 工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

- ① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③ 技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
- ② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

【機械創造システムコース】

数学、物理、工業力学、材料力学、熱力学、水力学の機械基礎科目と、機械工作法、製図、設計工学の設計生産科目、さらに4、5年生には、これら機械系技術に加え、メカトロニクスや制御工学の知識をも活用する創造デザイン演習などの科目を系統的に配置している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/ap>)

(概要)

◆ アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)

北九州高専が求める学生像

1. 数学、理科の分野に興味がある
2. 工学の分野に興味がある
3. 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる
4. 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ

◆ 本科入学選抜の基本方針

本校の教育理念、ディプロマ・ポリシー及び学習・教育目標を達成するために、適性と総合的な基礎学力を十分に持つ者を合格とする。

学部等名 生産デザイン工学科 知能ロボットシステムコース

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/philosophy>)

(概要)

教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

教育目的：

- (1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
- (2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
- (3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

研究目的：

- (1) 高度な実践的技術を教授するための教育水準の維持向上
- (2) 地域産業界との共同研究による地域への貢献と学生のものづくり教育の推進
- (3) 専門工学分野への学術的な貢献

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表

ディプロマ・ポリシー <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/dp>

北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則

http://www.kct.ac.jp/files/uploads/seisekihyouka202304_1.pdf)

(概要)

◆ ディプロマ・ポリシー

【生産デザイン工学科共通】

実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという特色ある教育課程を通し、以下のような製造業をはじめとする様々な分野において将来活躍するための基礎となる技術、リベラルアーツ、さらには生涯にわたって学ぶ力を身に付けた実践的・創造的な技術者を育成する。

1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツを身に付けていること。
2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力を身に付けていること。
3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドを身に付けていること。
4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基礎知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力を身に付けていること。

【知能ロボットシステムコース】

社会における要求や課題に対して、ロボット技術を駆使して自ら解決策を提案し、デザインできるシステムインテグレータ。

◆ 卒業又は修了の認定に係る成績の評価等

(学年の課程修了の認定)

学年修了及び進級は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。

- (1) 評語「F」がないこと。
 - (2) 欠課時間数が純授業時間数(学修単位科目にあつては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。
 - (3) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。
 - (4) 第1学年から第3学年については、特別活動の評価が合格であること。
- 2 評語「F」は、当該年度中に再試験を合格することで評語「D」にすることができる。

(課程修了)

第5学年の学年修了を認定された者は、課程を修了したものとする。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/cp>

学生便覧内に記載

https://www.kct.ac.jp/burger_editor/burger_editor/dl/238_MjAyM19nYWt1c2VpYmlucmFu.pdf)

(概要)

◆ 本科のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)

1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツの修得を図る。
2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力の育成を図る。
3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドの育成を図る。
4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基礎知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力の育成を図る。

【生産デザイン工学科共通】

(A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ② 機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④ 実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ① 専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
- ② 工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③ 工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

- ① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③ 技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
- ② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

【知能ロボットシステムコース】

数学、物理、機械工学、情報処理、制御理論を基礎に、機械制御システムであるロボットの設計製作を対象として、インターフェース技術、組込み技術、設計技術を活用するための科目を系統的に配置している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/ap>)

(概要)

◆ アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)

北九州高専が求める学生像

1. 数学、理科の分野に興味がある
2. 工学の分野に興味がある
3. 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる
4. 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ

◆ 本科入学者選抜の基本方針

本校の教育理念、ディプロマ・ポリシー及び学習・教育目標を達成するために、適性と総合的な基礎学力を十分に持つ者を合格とする。

学部等名 生産デザイン工学科 電気電子コース

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/philosophy>)

(概要)

教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

教育目的：

- (1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
- (2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
- (3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

研究目的：

- (1) 高度な実践的技術を教授するための教育水準の維持向上
- (2) 地域産業界との共同研究による地域への貢献と学生のものづくり教育の推進
- (3) 専門工学分野への学術的な貢献

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表

ディプロマ・ポリシー <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/dp>

北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則

http://www.kct.ac.jp/files/uploads/seisekihyouka202304_1.pdf)

(概要)

◆ ディプロマ・ポリシー

【生産デザイン工学科共通】

実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるといふ特色ある教育課程を通し、以下のような製造業をはじめとする様々な分野において将来活躍するための基礎となる技術、リベラルアーツ、さらには生涯にわたって学ぶ力を身に付けた実践的・創造的な技術者を育成する。

1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツを身に付けていること。
2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力を身に付けていること。
3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドを身に付けていること。
4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基盤知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力を身に付けていること。

【電気電子コース】

電気電子工学に関する知識を基礎とし、実践的な電気電子技術および知識を幅広い工学分野に適用でき、問題解決できる能力を身に付けた技術者。

◆ 卒業又は修了の認定に係る成績の評価等

(学年の課程修了の認定)

学年修了及び進級は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。

- (1) 評語「F」がないこと。
 - (2) 欠課時間数が純授業時間数(学修単位科目にあっては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。
 - (3) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。
 - (4) 第1学年から第3学年については、特別活動の評価が合格であること。
- 2 評語「F」は、当該年度中に再試験を合格することで評語「D」にすることができる。

(課程修了)

第5学年の学年修了を認定された者は、課程を修了したものとする。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/cp>

学生便覧内に記載

https://www.kct.ac.jp/burger_editor/burger_editor/dl/238_MjAyM19nYWt1c2VpYmlucmFu.pdf)

(概要)

◆ 本科のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)

1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツの修得を図る。
2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力の育成を図る。
3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドの育成を図る。
4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基礎知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力の育成を図る。

【生産デザイン工学科共通】

(A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ② 機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④ 実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ① 専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
- ② 工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③ 工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

- ① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③ 技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
- ② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

【電気電子コース】

数学、物理、電気回路、電子回路、電気磁気学、制御工学、情報処理を基礎として、電力と情報分野の科目とエレクトロニクスに関する科目、問題解決型の実習・実験科目を系統的に配置している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/ap>)

(概要)

◆ アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)

北九州高専が求める学生像

1. 数学、理科の分野に興味がある
2. 工学の分野に興味がある
3. 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる
4. 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ

◆ 本科入学選抜の基本方針

本校の教育理念、ディプロマ・ポリシー及び学習・教育目標を達成するために、適性と総合的な基礎学力を十分に持つ者を合格とする。

学部等名 生産デザイン工学科 情報システムコース

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/philosophy>)

(概要)

教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

教育目的：

- (1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
- (2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
- (3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

研究目的：

- (1) 高度な実践的技術を教授するための教育水準の維持向上
- (2) 地域産業界との共同研究による地域への貢献と学生のものづくり教育の推進
- (3) 専門工学分野への学術的な貢献

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表

ディプロマ・ポリシー <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/dp>

北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則

http://www.kct.ac.jp/files/uploads/seisekihyouka202304_1.pdf)

(概要)

◆ ディプロマ・ポリシー

【生産デザイン工学科共通】

実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという特色ある教育課程を通し、以下のような製造業をはじめとする様々な分野において将来活躍するための基礎となる技術、リベラルアーツ、さらには生涯にわたって学ぶ力を身に付けた実践的・創造的な技術者を育成する。

1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツを身に付けていること。
2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力を身に付けていること。
3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドを身に付けていること。
4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基盤知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力を身に付けていること。

【情報システムコース】

ICT(情報通信技術)を活用したシステムに関連するハードウェアとソフトウェアの知識と技術を身に付け、様々なコンピュータ応用分野で問題解決できる能力を身に付けた技術者。

◆ 卒業又は修了の認定に係る成績の評価等

(学年の課程修了の認定)

学年修了及び進級は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。

- (1) 評語「F」がないこと。
- (2) 欠課時間数が純授業時間数(学修単位科目にあつては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。
- (3) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。
- (4) 第1学年から第3学年については、特別活動の評価が合格であること。

2 評語「F」は、当該年度中に再試験を合格することで評語「D」にすることができる。

(課程修了)

第5学年の学年修了を認定された者は、課程を修了したものとする。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/cp>

学生便覧内に記載

https://www.kct.ac.jp/burger_editor/burger_editor/dl/238__MjAyM19nYWt1c2VpYmIucmFu.pdf)

(概要)

◆ 本科のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)

1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツの修得を図る。
2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力の育成を図る。
3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドの育成を図る。
4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基礎知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力の育成を図る。

【生産デザイン工学科共通】

(A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ② 機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④ 実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ① 専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
- ② 工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③ 工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

- ① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③ 技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
- ② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

【情報システムコース】

情報工学、電気電子回路、制御理論を基礎として、ICT(情報通信技術)を活用するための科目とシステム制御を対象とする科目を系統的に配置している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/ap>)

(概要)

◆ アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)

北九州高専が求める学生像

1. 数学、理科の分野に興味がある
2. 工学の分野に興味がある
3. 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる
4. 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ

◆ 本科入学選抜の基本方針

本校の教育理念、ディプロマ・ポリシー及び学習・教育目標を達成するために、適性と総合的な基礎学力を十分に持つ者を合格とする。

学部等名 生産デザイン工学科 物質化学コース

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/philosophy>)

(概要)

教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

教育目的：

- (1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
- (2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
- (3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

研究目的：

- (1) 高度な実践的技術を教授するための教育水準の維持向上
- (2) 地域産業界との共同研究による地域への貢献と学生のものづくり教育の推進
- (3) 専門工学分野への学術的な貢献

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表

ディプロマ・ポリシー <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/dp>

北九州工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規則

http://www.kct.ac.jp/files/uploads/seisekihyouka202304_1.pdf)

(概要)

◆ ディプロマ・ポリシー

【生産デザイン工学科共通】

実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を理解させるという特色ある教育課程を通し、以下のような製造業をはじめとする様々な分野において将来活躍するための基礎となる技術、リベラルアーツ、さらには生涯にわたって学ぶ力を身に付けた実践的・創造的な技術者を育成する。

1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツを身に付けていること。
2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力を身に付けていること。
3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドを身に付けていること。
4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基盤知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力を身に付けていること。

【物質化学コース】

物質化学分野に関する専門知識や技術をベースに、環境資源に配慮しつつ、材料工学・化学工学分野及び生物工学分野の研究開発や生産技術に関する問題を解決できる能力を身に付けた技術者。

◆ 卒業又は修了の認定に係る成績の評価等

(学年の課程修了の認定)

学年修了及び進級は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。

- (1) 評語「F」がないこと。
 - (2) 欠課時間数が純授業時間数(学修単位科目にあつては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。
 - (3) 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。
 - (4) 第1学年から第3学年については、特別活動の評価が合格であること。
- 2 評語「F」は、当該年度中に再試験を合格することで評語「D」にすることができる。

(課程修了)

第5学年の学年修了を認定された者は、課程を修了したものとする。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/cp>

学生便覧内に記載

https://www.kct.ac.jp/burger_editor/burger_editor/dl/238_MjAyM19nYWt1c2VpYmlucmFu.pdf)

(概要)

◆ 本科のカリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)

1. 中学校卒業からの5年間一貫教育によって、工学的技術への興味・関心を高め、実践的技術者に必要な科学的基礎知識とリベラルアーツの修得を図る。
2. 自分の意見を理論的に表現でき、周囲とお互いに理解・尊重しあうコミュニケーション力と人間力の育成を図る。
3. 幅広い工学基礎、技術者に必要な国際的素養や倫理観と、社会の発展のために貢献できる地域マインドの育成を図る。
4. 専門コースで定める技術者に必要な工学的専門基礎知識と、実験・実習および演習・実技を通してその知識を問題解決や創造的技術開発に応用・実践できる力の育成を図る。

【生産デザイン工学科共通】

(A) 技術内容を理解できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者

- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、基礎科目に関する問題を解くことができる。

(B) 専門分野における基礎知識を身に付けた技術者

- ① 専門分野における工学の基礎を理解できる。
- ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解くことができる。

(C) 専門工学基礎知識の上に実践的技術を学んだ技術者

- ① 実験や実習を通じて、問題解決の実践的な経験を積む。
- ② 機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
- ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学基礎知識をもとにその内容を考察することができる。
- ④ 実験や実習について、方法・結果・考察をまとめ、報告できる。

(D) 身に付けた工学知識・技術をもとにして問題を解決する能力を有する技術者

- ① 専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を統合し、活用できる。
- ② 工学知識や技術を用いて、課題解決のための調査や実験を計画し、遂行できる。
- ③ 工学知識や技術を用いて、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。

(E) 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーションの基礎能力を有する技術者

- ① 歴史・文化・国語・外国語を学び、コミュニケーションするための基礎的な教養を身に付ける。
- ② 日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
- ③ 英語によるコミュニケーションの基礎能力(読解・記述・会話)を身に付ける。

(F) 歴史・文化・社会に関する教養を持ち、技術の社会・環境との関わりを考えることのできる技術者

- ① 歴史・文化・社会に関する基礎的な知識を身に付ける。
- ② 工業技術と社会・環境との関わりを考えることができる。
- ③ 技術者としての役割と責任を認識できる。

(G) 社会の一員としての自覚、倫理観を持ち、心豊かな人間性を有する技術者

- ① 健やかな心身を持ち、社会性、協調性を身に付ける。
- ② 社会人として、技術者として必要な素養、一般常識や礼儀、マナーについて考えることができる。

【物質化学コース】

無機化学、分析化学、有機化学、高分子化学、生物化学、物理化学、化学工学等の共通必修科目を基礎として、材料機能や物質生産に関わる物質工学、応用化学工学、応用生物学及び食品工学等に関連する必修科目を系統的に配置するとともに、修得した知識を複合的に活用する物質化学総合実習などを配置している。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/ap>)

(概要)

◆ アドミッション・ポリシー(入学者の受入れに関する方針)

北九州高専が求める学生像

1. 数学、理科の分野に興味がある
2. 工学の分野に興味がある
3. 実験・実習に自ら進んで取り組むことができる
4. 将来、国際センスと人間性を備え、社会を支える技術者として活躍する意思を持つ

◆ 本科入学選抜の基本方針

本校の教育理念、ディプロマ・ポリシー及び学習・教育目標を達成するために、適性と総合的な基礎学力を十分に持つ者を合格とする。

学部等名 生産デザイン工学専攻

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/philosophy>)

(概要)

教育理念：明るい未来を創造する開拓型エンジニアの育成

教育目的：

- (1) 幅広い工学基礎と創造的技術開発力の修得
- (2) 国際社会で尊敬され、信頼される国際センスの修得
- (3) 地球にやさしい技術を開発できる心豊かな人間性の涵養

研究目的：

- (1) 高度な実践的技術を教授するための教育水準の維持向上
- (2) 地域産業界との共同研究による地域への貢献と学生のものづくり教育の推進
- (3) 専門工学分野への学術的な貢献

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 https://www.kct.ac.jp/about/3policy/a_dp

北九州工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

http://www.kct.ac.jp/files/uploads/senkouka_risyu202304-2_1.pdf)

(概要)

◆ ディプロマ・ポリシー

複数分野の工学知識・技術を有機的に結びつけ、総合的に問題を解決できるとともに、技術者としての倫理観、地球的視点を持ち、地域と世界の発展に貢献する意志を持つ技術者を育成する。このために、以下の学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した者に対して専攻科修了を認定する。

1. 幅広い視野から問題を捉え、複数分野(機械工学、電気電子工学、情報工学、応用科学、生物工学)の工学知識・技術を有機的に結びつけ、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を身に付ける。
2. 技術者倫理や一般教養を身に付けることで視野を広げ、技術者として、地域・世界に貢献する意志を持つ。
3. 多様な文化を理解するための教養を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を身に付け、多様な人々と協働できる。

◆ 卒業又は修了の認定に係る成績の評価等

(成績の評価)

- 1 成績は、授業科目ごとにシラバスに記載した評価方法に基づき、第4条に規定する試験の成績その他を総合して評点で評価する。
- 2 成績の評価は、次の区分による。

評価	優	良	可	不可
評点	100～80	79～70	69～60	59～0

- 3 再試験により合格した授業科目の評点は、60点とする。
- 4 試験において不正行為を行った者は、当該試験科目以降の受験を認めない。また、当該授業科目の試験の成績は0点とし、さらに、停学処分期間中の当該授業科目以降のすべての試験(当該試験期間中に試験として実施したものを含む。)に対する追試験を認めない。

(単位の認定)

次の各号のすべてを満たした授業科目については、当該科目を修得したものとして単位を認定する。

- (1) 第5条第2項の規定に基づき、評価が優、良及び可に評価されること。
- (2) 欠課時間数が純授業時間数の3分の1を超えないこと。

(修了に必要な単位)

専攻科の修了に必要な単位は、62単位以上(そのうち、一般科目は10単位以上、専門基礎科目は14単位以上、専門科目は38単位以上とする。)とする。

【成績評価基準】

第1学年：単位修得科目のうち第1学年の必修科目の合計及び選択科目の得点の高いほうから合計31単位分の平均点とする。

第2学年：単位修得科目のうち必修科目の合計及び選択科目の得点の高いほうから合計62単位分の平均点とする。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 <https://www.kct.ac.jp/about/3policy/cp>

学生便覧内に記載

https://www.kct.ac.jp/burger_editor/burger_editor/dl/238_MjAyM19nYWt1c2VpYmlucmFu.pdf)

(概要)

- (A) 技術内容の高度化に対応できる基礎学力(数学、自然科学、情報)と自己学習能力を持つ技術者
- ① 数学・物理・化学などの自然科学、情報技術に関する共通基礎を理解できる。
 - ② 自主的・継続的な学習を通じて、共通基礎科目に関する問題を解決できる。
- (B) 専攻分野の「生産」に関わる専門知識を身に付けた技術者
- ① 共通基礎知識を用いて、専攻分野における設計・製作・評価・改良など生産に関わる専門工学の基礎を理解できる。
 - ② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解決できる。
- (C) 専門工学知識の上に「生産」に関わる実践的技術を身に付けた技術者
- ① 専門工学の実践に必要な知識を深め、実験や実習を通じて、問題解決の経験を積む。
 - ② 機器類(装置・計測器・コンピュータなど)を用いて、データを収集し、処理できる。
 - ③ 実験結果から適切な図や表を作り、専門工学知識をもとに分析し、結論を導き出せる。
 - ④ 実験や実習について、方法・結果・考察を的確にまとめ、報告できる。
- (D) 幅広い視野から問題を捉え、複数分野の工学知識・技術を有機的に結び付け、総合的に問題を解決する素養(デザイン能力)を有する技術者
- ① 専攻分野における専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、応用できる。
 - ② 専攻分野の専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。
 - ③ 要求された課題に対して幅広い視野で問題点を把握し、その解決方法を提案できる。
 - ④ 工学知識や技術を統合し、課題解決のための調査や実験を自発的に計画し、遂行できる。
 - ⑤ 工学知識や技術を統合し、課題解決のための結果の整理・分析・考察・報告ができる。
- (E) 多様な文化を理解する能力を持ち、日本語および外国語によるコミュニケーション能力を有する技術者
- ① 歴史・文化・日本文学(国語)・外国語を学び、多様な文化を理解できる。
 - ② 実験・実習・調査・研究内容について、日本語で論理的に記述し、報告・討論できる。
 - ③ 専攻分野の技術英文を含め、英文を読解し、日本語での内容説明ができる。
 - ④ 調査・研究の目的と内容を理解した上で、その概要を英語で記述できる。
 - ⑤ 英語による基本的な会話ができる。
- (F) 歴史・文化・社会に関する教養と頑健な心身を持ち、技術の社会・環境とのかかわりを考えることのできる技術者
- ① 歴史・文化・社会に関する知識を持ち、それらを示すことができる。
 - ② 工業技術と社会・環境との関わりを理解し、社会・環境への効果と影響を説明できる。
 - ③ 技術者としての役割と責任(倫理観)を認識し、説明できる。
- (G) 多様性のあるチームの中で、成果を上げるために行動できる技術者
- ① メンバーとして、自己のなすべき行動を判断し実行できる。
 - ② リーダーとして、他者の取るべき行動を判断し、適切に行動させるように働きかけることができる。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページにて公表 https://www.kct.ac.jp/about/3policy/a_ap)

(概要)

- ◆ 北九州高専が求める学生像
 - ・ 高等専門学校準学士課程等における基礎的な専門知識の確立を図り、さらにその専門知識を深めようとする意欲がある者
 - ・ 様々な分野の工学知識を学び、広い視野からの問題解決能力を身につけようとする向学心を持つ者
- ◆ 入学者選抜の基本方針
 - ・ 調査書と学力検査により、本校の教育理念及び学習・教育目標を達成するための適性と高等専門学校準学士課程等における基礎学力を十分に持つ者を合格とする。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： ホームページにて公表 http://www.kct.ac.jp/educational-activity/organization 学校要覧内に記載 https://www.kct.ac.jp/files/uploads/yoran2023_1.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数(本務者)							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
生産デザイン工学科	—	35人	20人	12人	5人	1人	73人
生産デザイン工学専攻	—	人	人	人	人	人	人
b.教員数(兼務者)							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
人			46人				46人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：HPで公表 https://www.kct.ac.jp/about/staff					
c.FD(ファカルティ・ディベロップメント)の状況(任意記載事項)							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生産デザイン工学科	200人	200人	100%	1000人	1030人	103%	人	4人
生産デザイン工学専攻	20人	26人	130%	40人	45人	112.5%	人	人
合計	人	人	%	人	人	%	人	人
(備考)生産デザイン工学科の編入学定員は若干名								

b.卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生産デザイン工学科	203人 (100%)	70人 (34.5%)	128人 (63%)	5人 (2.5%)
生産デザイン工学専攻	31人 (100%)	10人 (32.3%)	21人 (67.7%)	0人 (0%)
合計	234人 (100%)	80人 (34.2%)	149人 (63.7%)	5人 (2.1%)
(主な進学先・就職先)(任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数(任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"> 授業計画書(シラバス)の作成に係る取組 高専統一シラバスシステムにより、教育課程に記載されている各授業科目について到達目標を設定している。授業計画書については担当教員により見直しを行い、教務委員会にて確認の上、Web シラバスにて公開している。 授業計画書の作成・公表時期 翌年度の授業計画、担当教員を11月～12月にかけて決定し、その後1月末までを授業計画書(シラバス)の入力時期としている。 授業計画書公表時期：4月

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本科 <ul style="list-style-type: none"> 学年の修了及び進級は、次の各号のすべてを満たした者に対して、校長が認定する。 <ol style="list-style-type: none"> 評語「F」がないこと。 欠課時間数が純授業時間数(学修単位科目にあつては純学校授業時間数)の3分の1を超えた科目がないこと。 学校行事の出席時間数が、学校行事総時間数の3分の2以上であること。 第1学年から第3学年については、特別活動の評価が合格であること。 評語「F」は、当該年度中に再試験を合格することで評語「D」にすることができる。 第5学年の学年修了を認定された者は、課程を修了したものとする。 ◆ 専攻科 <ul style="list-style-type: none"> 次の各号のすべてを満たした授業科目については、当該科目を修得したものとして単位を認定する。 <ol style="list-style-type: none"> 第5条第2項の規定に基づき、評価が優、良及び可に評価されること。 欠課時間数が純授業時間数の3分の1を超えないこと。 専攻科の修了に必要な単位は、62単位以上(そのうち、一般科目は10単位以上、専門基礎科目は14単位以上、専門科目は38単位以上とする。)とする。 専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得した者については、修了を認定する。 				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	生産デザイン 工学科	167 単位	有・無	単位
	生産デザイン工学 専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：HPにて公表 <https://www.kct.ac.jp/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	生産デザイン 工学科	234,600 円	84,600 円	29,800 円～ 213,840 円	後援会入会金 5,000 円 後援会費 25,000 円 TOEIC Bridge 受験料 3,130 円/3,740 円 学生会入会金 2,000 円 (入学時のみ) 学生会費 4,800 円 (寮生のみ) 入寮費 1,500 円 寄宿料 8,400 円/9,600 円 寮管理費 159,200 円 寮生会費 3,000 円
	生産デザイン 工学専攻	234,600 円	84,600 円	13,000 円～ 18,000 円	後援会入会金 5,000 円 (入学時のみ ※本校卒業の専 攻科生は除く) 後援会費 13,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a.学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 教育改善と教育の保証を進めるために、企画と確認を行い、PDCA サイクルの重要な役割を担うことを目的として教育改革推進センターを設置し、以下の取り組みを行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教学 IR に関すること (2) 自己点検・自己評価に関すること (3) JABEE・認証評価に関すること (4) FD・SD に関すること (5) 満足度調査に関すること (6) 教育手法に関すること (7) 教育の高度化に関すること
<p>b.進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>◆ キャリア教育推進室 キャリア教育の体系化と高度化を行うことを目的として、キャリア教育推進室を設置し、以下の取り組みを行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) キャリア教育のプログラム化に関すること。 (2) キャリア教育の教材開発に関すること。 (3) 企業と地域自治体との連携に関すること。 (4) 学生のインターンシップに関すること。 (5) 保護者との連携に関すること。 <p>◆ 進路支援室 学生の進路について全校的に支援することを目的として、進路支援室を設置し、以下の取り組みを行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 就職に関すること (2) 進学に関すること (3) 関係機関との連携に関すること (4) 他研究機関との連携に関すること

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

◆総合学生支援センター

学生の学習と学生生活を総合的に支援することを目的として、総合学生支援センターを設置し、以下の取り組みを行っている。

- (1) 合理的配慮に基づいた支援に関すること
- (2) 専門機関と連携した支援に関すること
- (3) 保護者と連携した支援に関すること

◆学生相談室

総合学生支援センターの下、本校の学生が抱える修学、進路等、学生生活上の諸問題について相談に応じることにより、学生生活の充実を図ると共に、学生の人間的成長に資することを目的として、学生相談室を設置し、以下の取り組みを行っている。

- (1) 学生の修学、進路上の相談に関する助言及び援助
- (2) 学生の健康・生活上の相談に関する助言及び援助
- (3) その他学生の個人的な相談に関する助言及び援助
- (4) 学生相談活動に必要な調査及び研究
- (5) その他学生相談に関する業務

◆学生支援介助員

- ・ 発達障がい(もしくはその疑い)のある学生に対し、教育並びに学生生活の支援を行うため、学生支援介助員(以下「介助員」という。)を従事させ、学生の人間的成長に資することを目的とする。
- ・ 介助員は、発達障がい(もしくはその疑い)のある学生を支援するため、学生主事、学生相談室長、カウンセラーと緊密に連絡を取り合い、学生相談室に関する補助的な職務を行う。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kct.ac.jp/contribution/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	G140110111125
学校名 (〇〇大学 等)	独立行政法人国立高等専門学校機構 北九州工業高等専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		41人	39人	41人
内 訳	第Ⅰ区分	28人	30人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				41人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	-	0人
計	人	-	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	-	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。